
第1章 市民生活

地域活動や市民活動を活発化し、市民と行政の協働によるまちづくりを進めるとともに、防災や消防・救急の体制を強化し、地域で支え合う安全なまちづくりを進めます。

1. 地域コミュニティ
2. 交流
3. 市民協働
4. 防災
5. 消防・救急

基本施策1 地域コミュニティ

◆目指す姿

地域住民がコミュニティセンターや集会施設をはじめさまざまな場において、地域の課題解決のための意見交換を活発に行っています。その中で地域住民相互の信頼が確立され、住民みんなが地域活動に参加しています。また、各世代との連携・交流を持ちながら地域住民自らが活気ある住みよいまちづくりを進めています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
自治会加入率	82.9%	85%	87%
コミュニティ組織の数	2 団体	3 団体	4 団体
地域3あい事業実施地区数	55 地区	65 地区	75 地区
地域3あい事業を知っている子どもの割合	6.2%	12%	20%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画	
1 地域コミュニティ	1 自治会活動を支援する	1-1	2-1
	2 コミュニティ組織を支援する	2-1	
	3 地域活動の充実を図る	1-1	2-1
		4-1	

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
小牧原南区集会施設整備事業 【生活交流課】	老朽化した小牧原南区の集会施設を整備する。	30,000
集会施設整備事業 【生活交流課】	空港周辺地区の集会施設における空調機器等の機能回復工事を行う。	90,000
小松寺地区等町名設定事業 【生活交流課】	小松寺地区などの町名設定を実施するための調査を行う。	5,800

基本施策2 交流

◆目指す姿

市民交流活動が盛んに行われており、市民の交流がより深まっています。また、国籍や言葉、文化、生活習慣の違いを越えて市民間の交流や相互理解が深まり、地域で助け合って生活しています。更に、国内外の都市との交流に関心が高まり、国際交流協会や市民活動団体が中心となり、市民レベルでの都市間交流などが活発に行われています。

◆目標値

指 標		現 状 値	目 標 値	
			平成 25 年	平成 30 年
市民まつりまたは平成夏まつりに満足している、または楽しみにしている 市民・子どもの割合	市 民	45.8%	50%	55%
	子 ども	81.0%	83%	85%
国際交流事業などへの年間参加者数		1,984 人	2,100 人	2,200 人

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画	
2 交流	1 住民相互のつながりを深める	2-3	3-2
		4-2	
	2 外国籍市民との交流がしやすい環境を整備する	2-3	
	3 姉妹都市・友好都市などとの交流を進める	2-3	4-2

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
小牧市民まつり開催委託事業 【生活交流課】	「ふれあいの輪をひろげよう市民まつり」のテーマのもと、第30回の節目となる市民まつりを実施する。	43,000

基本施策3 市民協働

◆目指す姿

市民と行政が、まちづくりの主役は市民であるという認識のもと、対等なパートナーとして地域課題の解決に向けて共に考え、協力して行動しています。また、市民活動への関心が高まり、市政にも多くの市民が参加しています。更に、産学官の連携によりさまざまな資源が有効に活用され、協働によるまちづくりが進められています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
まちづくりに関する意見交換会や勉強会に参加したことがある市民の割合	3.8%	6%	10%
地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合	19.4%	25%	35%
ボランティア活動をしたいと思う子どもの割合	78.8%	80%	85%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画
3 市民協働	1 市民協働によるまちづくり意識を高める	2-2
	2 市民協働の役割分担を明確にする	2-2
	3 市民活動団体・ボランティア団体の活動を支援する	2-2
	4 産学官の連携を強化する	2-2

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
文化財啓発事業 【文化振興課】	産学官連携により市内文化財や古文書等の調査、歴史講座を実施。H21年度に織田信長サミットを開催する。	基本施策21参照

基本施策4 防災

◆目指す姿

防災対策が充実され、地震、風水害などの災害や武力攻撃、大規模なテロなどの不測の事態に対し被害を最小限に抑える体制ができています。そして、災害時に自主防災組織とボランティア、企業、行政との連携体制が確立され災害対応が速やかに行われています。また、備蓄資器材や情報伝達手段が整備され、市民をサポートする体制が整っています。

◆目標値

指 標		現 状 値	目 標 値	
			平成 25 年	平成 30 年
防災活動を行っている自主防災組織数		57 団体	70 団体	80 団体
家庭で日頃から地震や風水害などの備えをしている市民(家族と話し合ったり家族で準備をしている子ども)の割合	市 民	46.6%	60%	70%
	子 ども	43.0%	55%	70%
市が所有する耐震化の必要な特定建築物のうち耐震化した建築物の割合		0% (平成21年度着手)	90%	100%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画	
4 防災	1 防災意識を高める	1-1	2-1
	2 防災体制を充実する	1-1	
	3 建築物の耐震化を促進する	1-1	5-3

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
デジタル地域防災無線整備事業 【防災課】	デジタル移動系防災行政無線システムの設計・整備を行い、防災体制の充実を図る。	205,000
災害対策設備整備事業 【防災課】	備蓄品整備計画に基づき、市内7箇所に防災備蓄倉庫を整備し、防災体制の充実を図る。	16,000
小学校校舎耐震改修事業 【庶務課】	耐震化推進計画に基づき小学校の耐震工事を行い、安全で快適な学習環境の整備を進める。	基本施策16参照
中学校校舎耐震改修事業 【庶務課】	耐震化推進計画に基づき中学校の耐震工事を行い、安全で快適な学習環境の整備を進める。	基本施策16参照
小学校増改築事業 【庶務課】	小牧小学校の改築工事に向けて整備を進める。	基本施策16参照
中学校増改築事業 【庶務課】	味岡中学校の改築に向けて調査を行う。	基本施策16参照

基本施策5 消防・救急

◆目指す姿

消防・救急・救助・予防の各分野で専従・専門の職員が質の高い活動をして市民生活の安全を確保しています。また、多くの市民が心肺蘇生法やAEDの取扱いをマスターして、現場に居合わせた人による一次救命処置が実施されています。更に、市域を越えた相互応援が確立され、災害に対する初動体制が強化された安心なまちになっています。

◆目標値

指 標	現 状 値	目 標 値	
		平成 25 年	平成 30 年
救急出場における救急救命士搭乗率	83.2%	95%	100%
普通救命講習の受講率	8.2%	15%	20%
住宅用火災警報器の設置率	49.3%	100%	100%

◆計画の体系

基 本 施 策	施 策 の 展 開 方 向	戦 略 計 画
5 消防・救急	1 消防力を強化する	1-1
	2 火災予防対策を充実する	1-1
	3 救急・救助体制を強化する	1-1
	4 消防団との連携を強化する	1-1 2-1

◆主な計画事業

事 業 名	事 業 概 要	事業費(千円) H21～H23
消防車両購入事業 【消防総務課】	指揮車・高規格救急自動車・化学消防車・はしご自動車を更新し、消防力の強化を図る。	214,000
消防用施設設備整備事業 【消防総務課】	第1分団車庫を防災倉庫を併設した施設に建替え、消防団活動の活性化を図る。	50,000